

令和8年度学校評価報告書(目標設定)

	視点	4年間の目標 (令和7年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①学力向上進学重点校エントリー校として学力向上と高いレベルでの進路希望実現に向け適切な教育課程を編成するとともに、不断のカリキュラムマネジメントにより授業改善・教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②知識の習得とともに、生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、自ら課題を発見し解決する探究力や思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等を通じ達成感を得ることで生徒の自己肯定感を高め、成長を促す。</p>	<p>①スクールポリシーの実現を目指して年間教育計画およびLHR計画の策定を目指す。探究学習の一層の充実を図るとともに、公開研究授業を通して各教員に授業の在り方を振り返るきっかけを与える。</p> <p>③学校行事の企画・運営を生徒主体で行うことで、主体性、協働する力を育成する。また、生徒会活動においても、企画・運営を生徒主体で行うことで、主体性、協働する力を育成するとともに、これらの成功体験等を通じ達成感や自己肯定感を高め、成長を促す。</p>	<p>①グループのみならず各学年にも意見を求めて理想の学習計画の構築を目指す。探究学習については、学びの質の向上と時間確保を通して、これまで学年で完結していたものを2か年計画に再編する。また、外部ツールなどを活用するなど、より効果的な学習を目指す。</p> <p>③計画的に委員会や生徒会本部会議を開催し、生徒の意見を学校行事や学校生活に反映させる。また、これまでの学校行事、学校生活を振り返り、より良い学校行事、学校生活となるように主体的に関わり、協働する力を育成する。</p>	<p>①構築された年間教育計画およびLHR計画が、スクールポリシーを実現し、学力のバランスが取れたものであるかどうか。</p> <p>1・2学年の職員からのフィードバックや、学習成果発表会の成果において、より高い効果が見いだされたか。</p> <p>③生徒が学校行事や学校生活について自ら考え、意見を出し、実施に向けた方策を十分に考えられたか。また、それらを実際に反映させることができたか。</p> <p>生徒アンケートをとり、8割以上の生徒が、学校行事を協働、創造する機会ととらえ、主体的に取り組めたか。</p>
2	生徒指導 支援	<p>①学校生活の様々な場面で社会規範や自己管理能力等社会人として必要な資質を身に付けさせる「人づくり」を行う。</p> <p>②部活動を通じて社会性や自主性、協調性を涵養するとともに、達成感を得ることで生徒の自己肯定感を高め、成長を促す。</p> <p>③生徒一人ひとりの個に応じた組織的な教育相談体制を充実させる。</p>	<p>③教育相談の組織としての役割・機能や、情報共有方法を明確にし、より良い組織的な教育相談体制を構築する。</p>	<p>③教育相談の役割を教員に周知し、迅速で適切な情報共有が可能なシステムを構築する。また、その際に職員の意見を随時取り入れて体制を柔軟に更新していく。</p>	<p>③効果的な教育相談が、組織的かつ持続可能な形で実践できているか、相談の内容や件数、職員アンケートによって検証する。</p>
3	進路指導 支援	<p>①国際社会や地域社会で活躍できる高い資質・能力を持った人材を育成するため、学校外の教育力も活用してキャリア教育、グローバル教育を充実させる。</p> <p>②生徒が行きたい進路先にいけるよう、体系的な3年間の進路指導プログラムを計画・実践するとともに、適切な支援を行い、高いレベルでの進路希望を実現させる。</p>	<p>②生徒個々がそれぞれ、より難易度の高い進路目標を自ら設定し、挑戦しようとする姿勢を育む。</p>	<p>②生徒・保護者対象の進路説明会や大学訪問等を通じ、自ら定めた高い目標に挑戦する姿勢を醸成する。朝補習や夏期講習等を通じ、難関大学に通用する学力の定着を目指す。</p>	<p>②各自が希望通りの進路先に進むことができたか、3年4月の進路希望調査および卒業直前の質問紙調査の結果を通じて検証する。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域や家庭との連携・協働による教育活動を推進し、地域・家庭の期待や信頼に応える学校づくりを進める。</p> <p>②学校の魅力や特色及びスクールポリシー等学校の情報を積極的に外部へ発信する等広報活動に努め、本校の求める生徒像を明確にするるとともに、ミスマッチを未然に防ぎ本校で学びたいと望む志願者を増やす。</p>	<p>②本校の求める生徒像を外部に明確に伝え、入学後のミスマッチを防ぐとともに、本校で学びたいと望む志願者を増やす。</p>	<p>②中学校訪問を昨年度以上に力を入れて実践する。夏休みごろから、教員1人につき2校、毎年多くの生徒が来ている中学校が近隣であるが本校に入学する生徒が少ない中学校を訪問するなどし、広報活動に努める。</p>	<p>①中学校訪問を実施した中学校の入学者が昨年度より増えたか。全体の志願者数が昨年度より増えたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①日常的な研修や声かけを通じ「北陵から事故を出さない」という強い気持ちを職員が持つことで職員一人ひとりの危機管理意識を高め、業務の共有・協働・効率化を進め、不祥事を防止する。</p> <p>②生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう学習環境や防災体制の整備に取り組む。</p> <p>③円滑で効率的な学校運営のため常に業務の検証、改善を図り、風通しのよい職場づくりを進めるとともに、教員の働き方改革に取り組む。</p>	<p>②生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう防災体制の見直し及び強化に取り組む。</p> <p>③働き方改革の進展を最重要課題とし、教員の業務の在り方を見直し改善する。すぐるやTeamsなど既設のICTの積極的活用によって業務効率化を実現する。</p>	<p>②防災訓練について、これまで実施できていなかった臨時新校舎から旧校舎跡地への避難訓練を、今年度はより安全な避難方法を実施し確立する。</p> <p>③部活動の活動時間をみなおし、顧問教員の過度な負担を軽減する。各ICTシステムの特徴を分析し、効果的な活用を模索する。</p>	<p>②旧校舎跡地へ避難することが生徒の安全確保という観点から効果的であるか、あるいは、臨時新校舎内でどまった方が効果的であるかについて、検証結果を得られるか。</p> <p>③部活動休養日の適切な設定によって、教員が4週に週休日8日を確保しているか。</p> <p>半数以上の教員がシステムの利点・欠点を理解して、効果的に活用できたか。</p>